

令和7年度第1回香川県国民健康保険運営協議会 会議録

1 日 時 令和7年9月3日(水) 13:30~14:45

2 場 所 香川県庁本館 12 階 大会議室

3 委員の出席状況

〔出席委員9名〕 大森委員、木村委員、久米川委員、小島委員、近藤委員、佐々木委員、高松委員、豊嶋委員、松尾委員(会長)

〔欠席委員2名〕 梶原委員、田中委員

4 事務局出席者

健康福祉部 長尾部長

健康政策課 石井室長、海野室長補佐、矢田室長補佐、多田副主幹、尾倉副主幹、井上主任

5 傍聴者 1人

6 議事内容

各議題の審議等について

議題1 香川県国民健康保険事業特別会計決算について

事務局から、議題1(資料1)について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

- | | |
|---------|--|
| (委 員) | マイナ保険証に関して、昨年、導入された資格確認書を発行するシステムの改修経費について、ある市町の国保運営協議会に行った際、県から補助金が出ているとの報告であったが、県の決算状況を見ると、この件に関する各市町への支出が計上されておらず、国からの補助も無かったように見受けられた。この経費はどこに計上されているのか確認したい。 |
| (事 務 局) | マイナ保険証関連のシステム改修経費については、国から直接市町に補助されているものである。ご指摘の自治体に確認をしたところ、本来は国費収入として計上すべきところ、県支出金の名目で収入計上しており、正しくない処理であったため、今後注意するとの報告を受けたところである。 |
| (委 員) | 被保険者が国保の支出を見た時に、対応する収入の財源が正しく計上されていないとなれば、自分たちの保険料から払われているのでは、という誤解を招くおそれもあることから、国が経費を負担しているなら、それを正しく計上しておくべきだと思う。 |
| (会 長) | このご指摘は、市町の経理事務の誤りということで、県の決算には出てこない内容のものということである。

一般の方は、国民健康保険の財源内訳についてはあまりご存じないことと思うが、資料の棒グラフを見ると、保険給付等に要する費用は、納められる保険料よりも、国も含めた様々な主体から、かなり大きい金額の支援を受けていることが分かる。 |

議題2 香川県内市町国保運営状況について

事務局から、議題2(資料2)について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

- (委 員) 香川県の保険料収納率の令和5年度全国順位が44位というのは、9月1日付けの国保新聞にも載っていたもので、四国で一番悪い収納率である。前回の運営協議会でも質問したが、滞納された保険料(税)が、時効になって不能欠損となった額について、令和6年度の状況はどうであったか。
- また、被用者保険に移った人で、国保の資格喪失の手続が未了で、遡って手続をする場合があるが、資格が重複している期間について国保の保険料が調定されており、その部分も収納率に影響を与えているのではないのか。そのあたりについて、県からも市町に注意喚起していただきたい。
- (事 務 局) 令和6年度の香川県の市町国保の収納率について、多くの他の自治体において若干減少している状況であったが、高松市においては微増となっており、県全体として0.01%減の93.37%となった。
- 令和5年度の不納欠損額は4億2,200万円で、調定額に占める割合が2.05%であったのに対し、令和6年度の不能欠損額は4億1,500万円で、調定額に占める割合は2.09%であった。不能欠損額の割合は少し増えている。
- また、資格管理に関しては、オンライン資格確認の導入に伴い出力されるようになった資格重複リストを使って、各市町において取り組んでいるところである。ただ、手続きに時間差が生じたり、すぐに対応が難しいケースもあるとのことである。
- (委 員) 国保において、医療費を使っているのに保険料を納めないということがありと平等でないことになるため、きちんと督促をして保険料を納めてもらう努力は今後もしていただきたいと思う。
- (委 員) 国保新聞によれば、香川県については、令和5年度は令和4年度と比べ、収納率自体は0.16%上がっており、収納改善の順位は全国12位ということで頑張っておられると思う。前期高齢者納付金を納めている立場からすると、差し押さえといった滞納処分の実施状況や収納対策の取組みについては、見させていただくこととなる。今後、収納率の高い前期高齢者の割合の減少や、被用者保険の適用拡大などにより、所得の低い人が国保に残っていくことになるため、収納率を上げるのはかなり厳しくなってくるが、県内で均等に滞納処分がされるようお願いしたい。特に、県内の被保険者の約4割を占める高松市が収納率を上げることが、県全体の収納率を上げるのに効果大であると思う。高松市の昨年度の収納率は上昇しており、引き続き頑張りたい。

議題3 県における取組について

事務局から、議題3(資料3)について説明を行った。

議題4 その他

事務局から、子ども・子育て支援納付金（資料4）について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

（会 長） 少子化対策に係る経費について、医療保険の方からも支援する形で負担してもらいたいという新しい制度で、国会の議論を経て既に法律が通っているものである。単純に言うと、子ども・子育て支援納付金分に係る保険料（税）額が上がるということになる。こういう取り方がいいのか、徴収しやすいところから取っているとの感もある。

事務局から、マイナ保険証利用状況等（資料5）について説明を行った。

（会 長） マイナンバーカードについては、便利な面がいろいろあるのだが、信頼感などが十分浸透していないと思う。情報が他に漏れてしまうのではないかとといったマイナンバーカードに対する不信感が依然として残っている。

その他、委員から下記のとおり発言があった。

（委 員） 保険料水準統一となった時に、市町によって保健事業に差が出るのではないかとことを危惧している。せっかくの機会なので協会けんぽの取組について申し上げるが、県が行っている小学校4年生と中学校2年生の血液検査について、今年7月に、高松市の該当者に教育資材を作成して配布した。次は県の教育委員会に働きかけ、全ての市町を対象に実施したいと考えているところである。

次に、煙草のことについてだが、40歳以上のデータによる全国比較で、香川県は喫煙者の率は低いが、女性の喫煙率が高いため、今年から、健診を受けた中で喫煙歴のある方に啓発のDMを直接送る予定である。高松では商店街等で吸いながら歩いている人を見かけるなど、他県の人に驚かれる状況である。健康づくりの観点から、県も一緒に取り組んでいただきたい。医療費適正化にも資すると考える。

（事 務 局） 香川県においては、生活習慣病予防に早期から取り組むということで、医師会の先生方の御協力もいただいて、小学校4年生と中学校2年生の全生徒に血液検査を行っているが、呼応する形で啓発をしていただき、本当にありがたい。

（会 長） 煙草については、悩ましいところではあるが、市町と共に取り組んでまいりたい。条例により規制されている場所が分かるようにすべきである。現状の規制が不十分だということであれば、いろんな機会をとらえて取り組んでいただくのがよいと思う。

「以上」